

平成27年度

かごしま市 決算のあらまし



世界文化遺産の登録



谷山地区連続立体交差事業



鹿児島マラソンの開催



鹿児島市物産と観光キャンペーンin札幌

目次

- 27年度の主な事業実績 …………… P1
- 27年度決算の状況 …………… P3
- 一般会計決算額の内訳 …………… P4
- 健全化判断比率と資金不足比率 …… P7

27年度の主な事業実績

「市民が主役の鹿児島市の実現」に向け、次の7つの基本政策の推進に重点的に取り組みました。

1 人が行き交う魅力とにぎわいあふれるまち

①世界文化遺産登録推進事業〔59,797千円〕

「明治日本の産業革命遺産」が平成27年7月世界文化遺産に登録されました。

②平川動物公園リニューアル事業〔428,242千円〕

どうぶつ学習館やふれあいゾーン、世界のサルゾーン（ニホンザル舎）のリニューアル等の整備を行いました。



③鹿児島マラソン開催事業〔100,000千円〕

史跡や景観など本市の魅力を体感できる「鹿児島マラソン」を開催し、冬季の滞在型観光の推進を図りました。

④天文館ミリオネーション開催事業〔88,500千円〕

中心市街地に大規模なイルミネーションで光の空間を創出する「天文館ミリオネーション」を開催しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 桜島・錦江湾ジオパーク推進事業
- 薩摩藩英国留学生派遣150周年記念事業
- アジア青少年芸術祭
- 鹿児島ぶらりまち歩き推進事業
- 明治維新150年“維新のふるさと 鹿児島市”PR事業
- ふるさと魅力体験交流事業
- グリーンツーリズム推進事業
- 観光農業公園交流体験事業
- など

2 健やかに暮らせる安全で安心なまち

①高齢者福祉センター伊敷建設事業〔333,547千円〕

高齢者福祉センター伊敷の基本・実施設計を行うとともに、建築工事に着手しました。



完成イメージ

②セーフコミュニティ推進事業〔14,989千円〕

生涯にわたって安心安全に暮らせる世界基準の安心安全都市を目指し、WHOが推奨するセーフコミュニティの取組を進め、国際認証を取得しました。



③防災資機材等備蓄事業〔31,680千円〕

大規模災害の発生に備え、本庁や各支所のほか、小中学校等の指定避難所を中心に、発災直後に必要な資機材等の備蓄を進め、防災対策を強化しました。

④民間建築物耐震化補助事業〔62,462千円〕

不特定多数の市民などが利用するホテル・店舗等の大規模建築物の耐震診断に対し助成するとともに、新たに耐震補強設計に対し助成を行いました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 乳児ロタウイルス予防接種事業
- 西部親子つどいの広場整備事業
- 障害者基幹相談支援センター事業
- 降灰除去事業
- 消防緊急通信指令システム整備事業
- 食育フェスタ開催事業
- 水道管路耐震化事業
- など

3 水と緑が輝く人と地球にやさしいまち

①かごしま環境未来館管理運営事業〔160,766千円〕

指定管理制度を導入し、かごしま環境未来館を拠点とした参加体験型の環境学習講座等を行いました。

②コミュニティサイクル運営事業〔22,200千円〕

温室効果ガス排出量の削減を図るため、市内中心部21か所のサイクルポートで、どこでも自転車の貸出・返却ができるコミュニティサイクル事業を行いました。



③南部清掃工場ごみ焼却施設・バイオガス施設整備事業〔54,598千円〕

バイオガス施設と南部清掃工場のごみ焼却施設との一体的な整備に向け、生活環境影響調査等を実施して、基本設計を行いました。



施設イメージ

④城山公園自然の森再生事業〔34,056千円〕

城山公園保全計画に基づき、園路整備工事を行うとともに、モウソウチクなど外来種の駆除等を行いました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 自転車走行ネットワーク形成事業
- 武岡公園整備事業
- 公共建築物省エネルギー推進事業
- リデュース・リユース・リサイクル（3R）推進事業
- 住宅用太陽光発電導入促進事業補助金
- など

4 地域産業が元気で生き生きと働けるまち

①ものづくり職人育成支援事業〔323千円〕

ものづくり分野の技術継承、技術力向上等を図るとともに、人材育成の支援を行いました。



②「メイドインかごしま」支援事業〔24,505千円〕

中小企業者の新製品開発等の経営力強化や商品の販路拡大の取組を支援したほか、札幌市等で物産と観光のPRを行いました。

③中央卸売市場の整備〔1,730,342千円〕

青果市場においては、屋根付荷捌場や自走式立体駐車場の整備工事等を行い、魚類市場においては、仮設市場棟の建築工事や既存施設の解体工事等を行いました。

④フードビジネス推進事業〔12,703千円〕

商品開発プランの作成から、商品開発、マーケティング等を一貫して支援する体制を充実し、食品関連産業の振興を図りました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 高齢者就業機会確保等事業
- 街なか空き店舗活用事業
- クリエイティブ産業創出支援事業
- かごしまお茶まつり鹿児島大会
- 農村振興対策事業
- 農林水産物PR事業
- など

5 学ぶよろこびが広がる誇りあるまち

①鹿児島女子高多目的グラウンド整備事業〔203,650千円〕

旧鹿児島西高跡地を多目的グラウンドとして整備しました。



②次世代を切り拓く青少年育成事業〔4,927千円〕

長期宿泊共同生活での体験活動等を通して、グローバル人材の育成に重点を置いた「かごしま創志塾」を開設しました。

③教育相談の充実〔50,276千円〕

不登校をはじめ様々な教育上の悩みのある児童生徒、保護者、教職員等に対して、面接や電話等による相談活動を実施し、青少年の健全な発達を支援しました。

④第30回国民文化祭開催事業〔53,803千円〕

「吹奏楽の祭典」や「大薩摩焼展」など14事業を主催しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 郡山体育館建設事業
- 鹿児島ユナイテッドFCサポート事業
- 第75回国民体育大会準備事業
- 新・郷中教育推進事業
- 美術館開館30周年記念事業
- 平和都市宣言25周年・戦後70年記念事業
- など

6 市民生活を支える機能性の高い快適なまち

①鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業〔662,803千円〕

鹿児島駅周辺整備に係る都市計画決定に向けた取組や、駅前広場等の基本設計などを行うとともに、上町ふれあい広場の整備工事に着手しました。

②谷山地区連続立体交差事業〔5,534,846千円〕

高架本体や高架駅舎建築工事等を進め、高架線の供用を開始しました。



③安全安心住宅ストック支援事業〔100,466千円〕

子育て・高齢者等世帯の安心な住まいづくりを促進するとともに、安全で良質な住宅ストックの形成を図るため、住宅のリフォームや耐震化に助成しました。

④交通局施設リニューアル事業〔1,021,162千円〕

新局舎・電車施設を27年5月に、新バス施設を同年10月に供用開始しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 中央町19・20番街区市街地再開発事業
- 鹿児島中央駅周辺一体的まちづくり推進事業
- 坂之上駅アクセス環境整備事業
- 土地区画整理事業の推進
- 桜島港フェリー施設整備事業
- など

7 市民と行政が拓く協働と連携のまち

①個人番号カード交付事業〔181,500千円〕

個人番号カードの円滑な交付に向けた取組を進め、本庁及び各支所で交付を行いました。

②地方創生総合戦略策定事業〔3,355千円〕

人口減少問題に対応し、地方創生に向けて各種施策を推進するため、鹿児島市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」・「総合戦略」を策定しました。

③公共施設等総合管理計画策定事業〔10,384千円〕

公共施設等の現況及び将来の見通しを踏まえ、更新、長寿命化等を計画的に行うため、公共施設等総合管理計画を策定しました。

④コミュニティビジョン推進事業〔61,640千円〕

地域コミュニティ協議会の設立準備や地域コミュニティプラン策定等の活動を支援するとともに、設立予定校区等への周知広報に取り組みました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- 本庁舎整備事業
- 期日前投票所の新設
- 改新校区地域活性化施設整備事業
- みんなで参加わがまちづくり支援事業
- など

平成27年度 決算の状況

区 分	歳入(A)	歳出(B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度 繰越財源(D)	実質収支 (C-D)
一般会計	2,505億1,064万円	2,405億2,066万円	99億8,998万円	33億2,817万円	66億6,181万円

区 分	歳入(A)	歳出(B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度 繰越財源(D)	実質収支 (C-D)
特別会計	1,354億7,488万円	1,394億5,156万円	△39億7,668万円	0	△39億7,668万円
土地区画整理事業清算	108万円	1万円	107万円	0	107万円
中央卸売市場	23億8,335万円	23億6,113万円	2,222万円	0	2,222万円
地域下水道事業	5,428万円	4,747万円	681万円	0	681万円
桜島観光施設	9,373万円	9,373万円	0	0	0
国民健康保険事業	800億9,057万円	852億6,221万円	△51億7,164万円	0	△51億7,164万円
介護保険	456億4,236万円	449億3,719万円	7億 517万円	0	7億 517万円
後期高齢者医療	67億5,281万円	66億9,208万円	6,073万円	0	6,073万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	4億5,670万円	5,774万円	3億9,896万円	0	3億9,896万円

区 分	収入(A)	支出(B)	差引(A-B)
企業会計	441億7,160万円	456億1,626万円	△14億4,466万円
病院事業	168億8,686万円	207億 7万円	△38億1,321万円
交通事業	47億7,564万円	43億4,141万円	4億3,423万円
水道事業	115億9,585万円	103億4,992万円	12億4,593万円
工業用水道事業	766万円	717万円	49万円
公共下水道事業	86億2,933万円	78億 368万円	8億2,565万円
船舶事業	22億7,626万円	24億1,401万円	△1億3,775万円

※ 企業会計は収益的収支を税抜き額で表示しています。

【ポイント】

一般会計は、歳入額から歳出額を差し引いた額（形式収支額）は約100億円ですが、ここから翌年度で支払わなければならない繰越財源約33億円を引いた額（実質収支額）は、約67億円となり、前年度に引き続き黒字を確保しました。

特別会計は、8会計の合計で約40億円の赤字となりましたが、国民健康保険事業特別会計においては、28年度からの繰上充用で対応しました。

企業会計は、市立病院の旧施設の固定資産除却費の計上などにより、6会計の合計で約14億円の赤字となりました。

一般会計

市の会計の基本であり、福祉、医療、教育や道路・公園の整備など基本的な行政サービスを行う会計です。

主な収入は、市税や国・県支出金などです。

特別会計

特定目的のための会計で、国民健康保険税や介護保険料など特定収入があり、一般会計から切り離して、その収入・支出を管理する会計です。

〔27年度 8会計〕

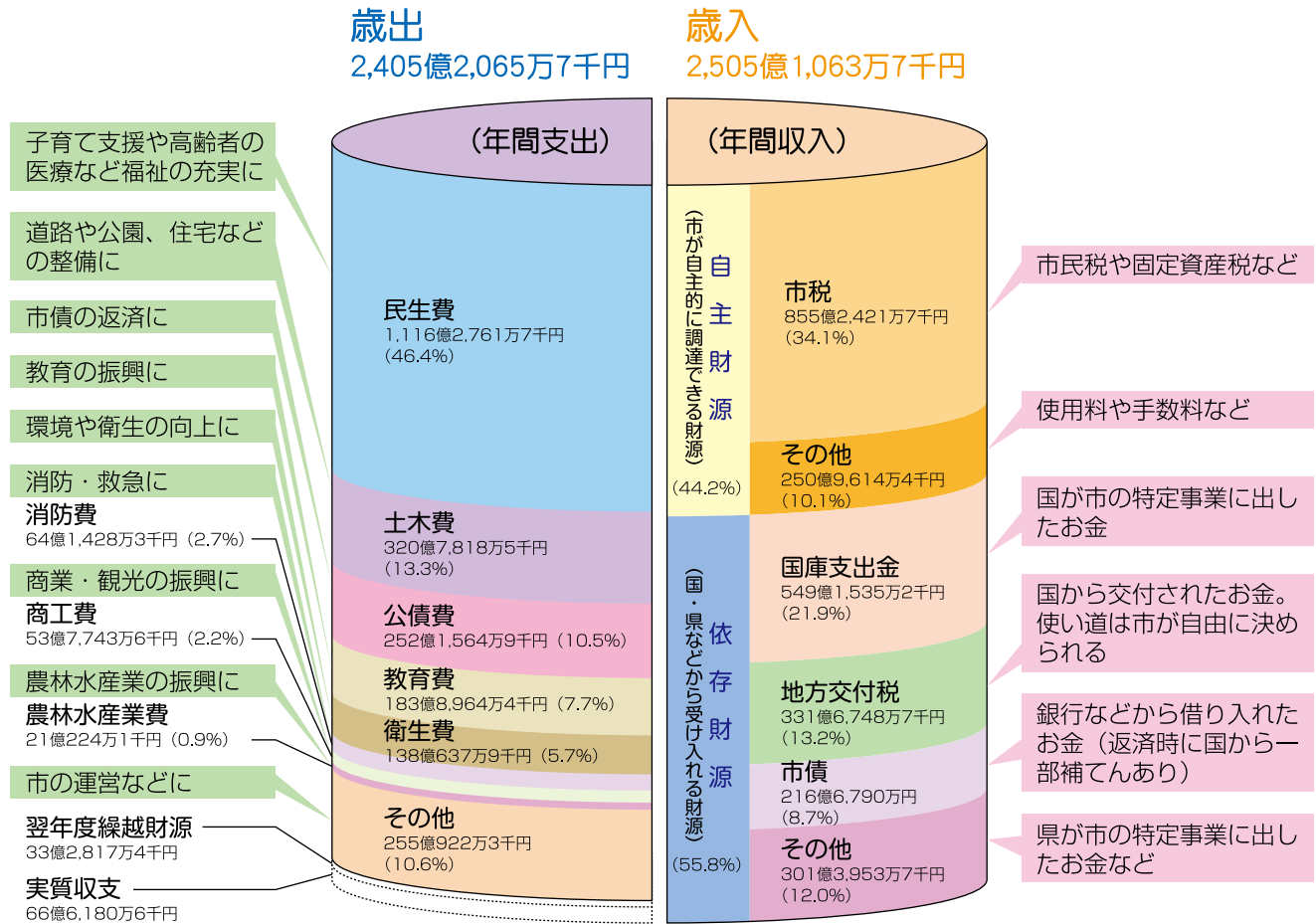
企業会計

地方公営企業（市立病院、交通局、水道局、船舶局）の会計で、民間企業と同じように、事業で収益をあげて運営する会計です。

〔27年度 6会計〕

一般会計決算額の内訳

歳入：市債が減少
歳出：その他（総務費）が減少



【歳出のポイント】

歳出総額は、約2,405億円で、前年度比66億円（2.7%）の減となりました。

歳出で最も多いのは、社会保障関係経費である子育て支援や生活保護費などに使われる民生費で、前年度と比較し、約29億円（2.7%）の増となっており、一般会計全体に占める割合が46.4%になりました。

【歳入のポイント】

歳入総額は、約2,505億円で、前年度比36億円（1.4%）の減となりました。

歳入で最も多いのは市税ですが、税制改正による法人市民税の減などにより、前年度と比較し、約3億円の減になりました。この他、銀行などからの借入の減に伴う市債が減となりました。

市民1人当たりの使い道は？

1人当たり約39万7千円のうち、福祉の充実に約18万4千円

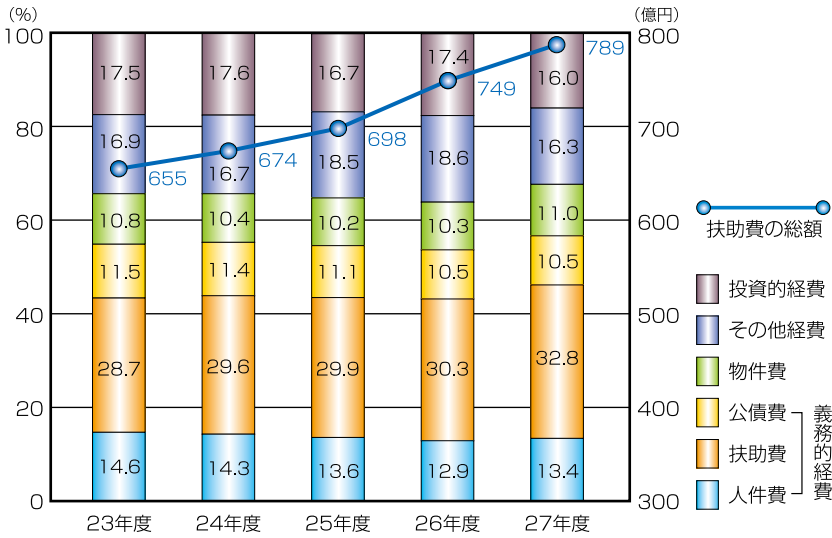
一般会計の歳出決算額2,405億円の使い道を市民1人当たりに換算してみました。

市民1人当たり 約39万7千円の使い道



歳出決算(性質別)の推移(普通会計)

扶助費は年々増加



【歳出決算のポイント】

生活保護や子育て支援、高齢者の医療などの扶助費が、前年度に引き続き増となり、総額に占める割合も年々高くなっています。27年度決算では、32.8%と約3割を占めています。

■用語メモ

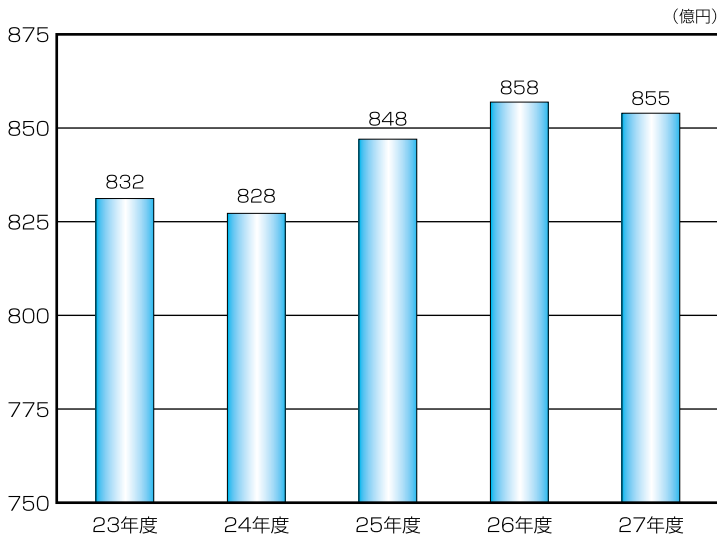
「普通会計」とは、

各市町村の決算状況を統一的に比較するために地方財政統計で用いられている会計区分です。

鹿児島市では、一般会計のほか、土地区画整理事業清算、地域下水道事業、母子父子寡婦福祉資金貸付事業の3特別会計を合わせたものです。

市税の推移

27年度は前年度より約3億円減少



【市税のポイント】

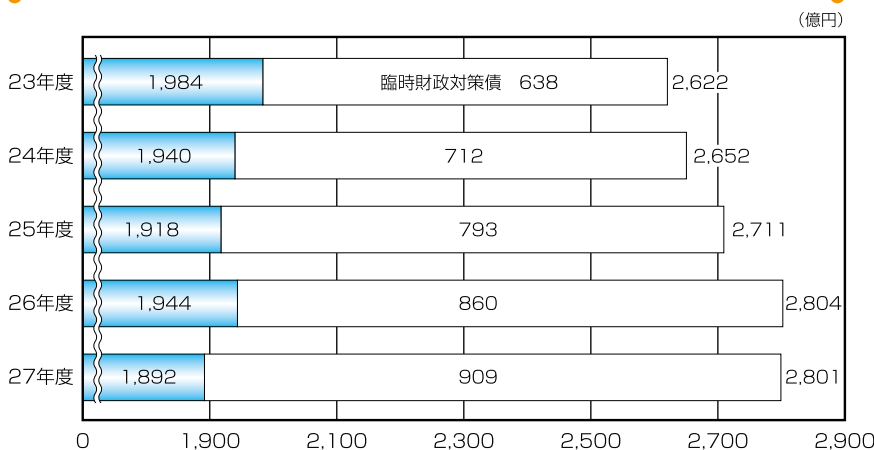
市税は鹿児島市のまちづくりを行うための最も重要な財源で、市民税や固定資産税、都市計画税などがあります。

27年度決算では、約855億円の税収があり、歳入全体の約34%を占めています。

(市民1人当たり約14万円となりました。)

市債残高の推移

実質的な残高は減少傾向



- グラフの右部分は実質的な地方交付税である臨時財政対策債です。
- 左部分は臨時財政対策債を除いた残高です。

【市債残高のポイント】

市債は、将来の市民の皆さんにも公平に費用負担をしていただくため、また、返済時に国から地方交付税が配分される制度を活用する観点から発行しました。

将来、地方交付税として配分される臨時財政対策債を除く実質的な市債残高は、近年、減少傾向を示しています。

(市民1人当たり約31万円となりました。)

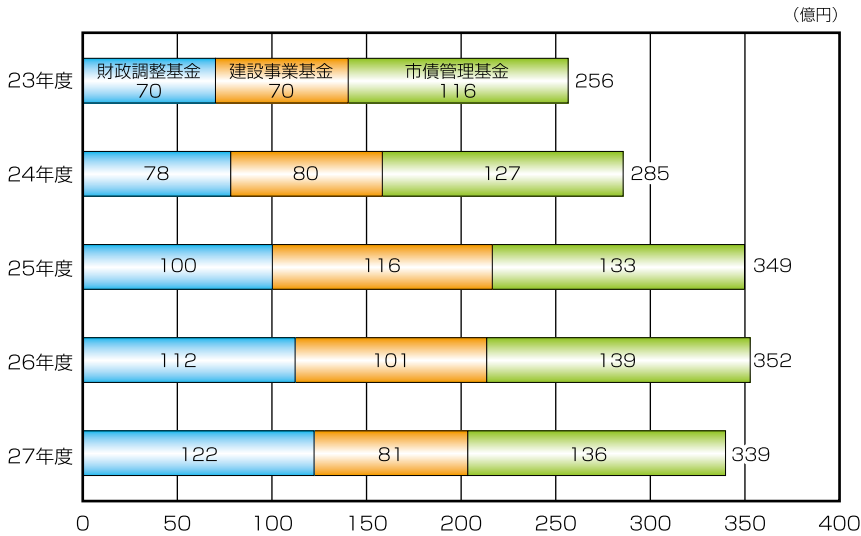
■用語メモ

「臨時財政対策債」とは、

本来は地方交付税として、国から配分されるお金を国の財政上の都合で市が借りているものです。返済はすべて国の負担です。

基金残高の推移

27年度は前年度より約13億円減少



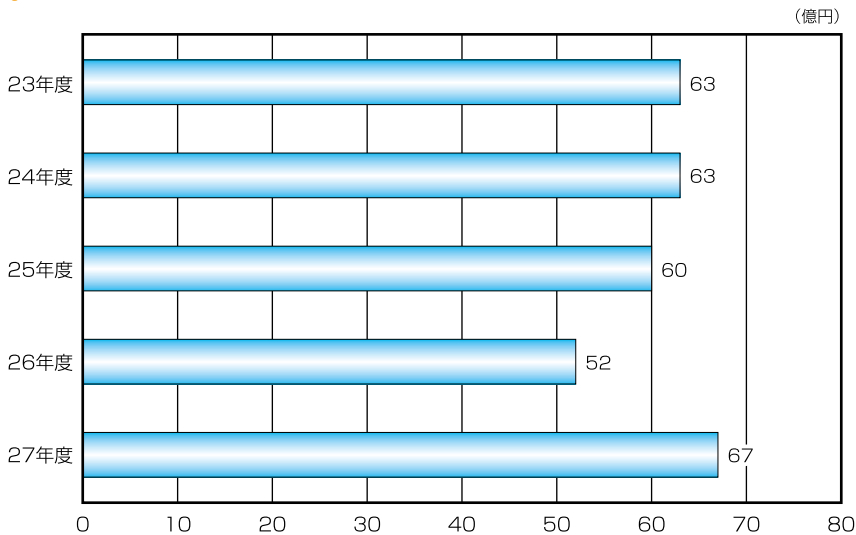
【基金残高のポイント】

基金は、一般家庭の貯金に相当するもので、左の3基金については、必要に応じて積立てや取崩しを行っています。

27年度は、本庁舎など大規模な施設の整備に対応するため、基金を取り崩し、残高は約339億円になりました。

実質収支の推移

27年度は約67億円を確保



【実質収支のポイント】

27年度決算では、約67億円の黒字額を確保しました。

■用語メモ

「実質収支」とは、その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを示す指標で、歳入と歳出の差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた額をいいます。

27年度決算のまとめ

本市の27年度決算は、前年度に引き続き黒字を確保し、実質的な市債残高を減少させた一方で、基金残高が減少しましたが、健全な財政運営を維持する中で、さまざまな施策を積極的に推進し、市勢の発展と市民福祉の向上に努めました。

今後見込まれる社会保障関係経費の増大など、財政状況は、厳しさを増していくと思われませんが、プライマリーバランスの黒字を確保しながら、可能な限り、各面からの財源を確保し、事業のしゅん別や見直しを行い、健全な財政運営に努めていきます。

■用語メモ

「プライマリーバランス」とは、借金(市債)を除いた歳入と返済(元金)を除いた歳出を比較したもので、歳入の方が多くなれば黒字となり、財政が健全であることを示します。

★予算や決算の状況は、

市ホームページ (【トップページ】→【市政情報】→【予算・決算・財政】→【財政状況】) をご覧ください。

<http://www.city.kagoshima.lg.jp/>

健全化判断比率と資金不足比率

※毎年度、「健全化判断比率」と「資金不足比率」の公表が義務付けられています。

● 健全化判断比率

【健全化判断比率のポイント】

市の財政の健全度を測る指標の一つで、基準を超えた場合、計画を定めて財政対策に取り組むこととなります。すべての項目で、早期健全化基準内となっています。

4指標	内 容	27年度決算（速報値）		早期健全化 基準 （イエローカード）	財政再生 基準 （レッドカード）
			中核市順位		
実質赤字比率	一般会計などの実質赤字の比率	—	—	11.25%	20.0%
連結実質赤字比率	全会計の赤字や黒字を合算した実質的な赤字の比率	—	—	16.25%	30.0%
実質公債費比率	借入金（地方債）の返済額やこれに準じた額の大きさを示す比率	3.9% (4.2%)	8位/45市 (6位/43市)	25.0%	35.0%
将来負担比率	一般会計などの地方債や将来支払う可能性がある負担などを加味した実質的な負債の比率	24.4% (25.6%)	17位/45市 (16位/43市)	350.0%	

※（ ）内は26年度決算

● 資金不足比率

【資金不足比率のポイント】

公営企業会計の財政の健全度を図る指標で、基準を超えた場合、計画を定め、経営改善に取り組むこととなります。27年度決算では、資金不足が生じている会計はありません。

公営企業会計	27年度決算	経営健全化基準
交通事業	— (8.4%)	20.0%
病院事業 水道事業 工業用水道事業 公共下水道事業	船舶事業 中央卸売市場 桜島観光施設 — (—)	

※（ ）内は26年度決算

～「かごしま市決算のあらまし」の作成に当たって～

60万市民の皆さんからお預かりした大事なお金。

市民と協働のまちづくりを進めていくために、大切にに使わせていただきました。

これからの「予算」だけでなく、取組の成果である「決算」を見やすく、わかりやすくお伝えし、あすの鹿児島市につなげていくために「かごしま市決算のあらまし」を作成しました。

市政の主役である市民の皆さんのさまざまなご活躍を、健全財政の維持と創意と工夫に満ちた行財政運営で、これからも支えてまいります。

平成27年度 かごしま市決算のあらまし

編集／発行：鹿児島市財政課

〒892-8677 鹿児島市山下町11-1 ☎099-216-1155